

革新的な技術シーズの事業化への橋渡しに係るパターンのイメージ

参考資料1

基礎研究

応用研究、開発

実証

事業化

1

2

3

4

5

6

7

8

9

現象の発見
科学的な
基本原理・
基本原則

原理・現象の
定式化
応用的な研究

技術コンセプト
の確認(POC)

研究室レベル
でのテスト

想定使用環境
でのテスト

実証・デモン
ストレーション
(システムレベル)

トップユーザー
テスト
(システムレベル)

パイロット
ライン

大量生産

TRL (Technology Readiness Level) の整理

A. 「公的研究機関による橋渡し」

人材流動

人材流動

研究委託

大学・
基礎研究機関

国費

企業からの受託

公的研究機関

企業

☆研究機関が企業の投資判断可能なレベルまで国費で研究開発を実施し、
研究委託や人材流動化を通じてその成果を取り込み事業化

独等の中心
的なパターン

B. 「ベンチャー企業による橋渡し」

大学・
基礎研究機関

ベンチャー企業

買収

企業

スピンアウト

☆ベンチャー企業の買収により新しい技術・アイデアをとりこみ事業化 (Acquisition&Research&Development)

米国の中心
的なパターン

C. 「共同研究による橋渡し」

大学・
基礎研究機関

共同研究

- ナショナル・プロジェクト
- 個別企業と大学 等

企業

☆共同研究成果の技術を新製品や新事業に活用

ファンディング機関